



平成 23 年 4 月 28 日 木曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
(奈良県保健環境研究センター内)
Nara IDSC



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報

■ インフルエンザの発生動向について ~感染症情報センターより~



(調査週) 平成 23 年 第 16 週 4 月 18 日 (月) ~ 4 月 24 日 (日)

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患) (5 週間からの動向)

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	7.80	→	→	→	→
2	インフルエンザ	6.65	→	→~↓	→~↑	→~↓
3	水 痘	1.43	→	↑	↓	↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.14	→	→~↓	→	→~↑
5	伝染性紅斑	0.89	→~↑	→	↑↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移(定点当りの変化程度で実数ではない)を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 342 例で、前週報告の 377 例からやや減少。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④伝染性紅斑、⑤A 群溶連菌咽頭炎の順。水痘の報告数(35 例)は、ほぼ倍増。感染性胃腸炎の報告数(127 例)は、やや増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数(9 例)は、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数(136 例)は、減少。伝染性紅斑の報告数(17 例)は、やや減少。なお、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内 38 例、郡山 HC 管内 98 例だった。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。郡山 HC 管内眼科定点から、急性出血性結膜炎と流行性角結膜炎が、各々 1 例ずつ報告された。(村井 記)

県北部外来状況：外来は感染症は落ち着いているが、予防接種が多種類あり忙しい。インフルエンザは春休みで一旦減少したが、平均して 1 日 1-2 人の感染者がある。迅速検査ではここ 2 週間は B 型のみ検出されている。症状は AH1N1pdm のように咳が前面にでず、発病当初は頭痛、腹痛、嘔吐を伴う発熱の後、咳と鼻汁がでる。感染性胃腸炎は前回に続き乳幼児のロタウイルス感染で、年長児や保護者まで感染している。水痘は幼児で流行が目立ってきた。(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は 353 例から 379 例と増加した。上位の 5 疾患(15 週→16 週)は、①インフルエンザ(141 例→211 例)、②感染性胃腸炎(151 例→106 例)、③A 群溶連菌咽頭炎(21 例→20 例)、④伝染性紅斑(5 例→13 例)、⑤水痘(22 例→11 例)、であった。インフルエンザは 15 週より増加し再び一位となった。眼科定点からは、流行性角結膜炎 4 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。(徳田 記)

県中部外来状況：外来数は連休前のためか急増。インフルエンザ B 型が増加中。迅速キットでは、発症後一日以上経過して漸く陽性に出る例もあり注意が必要。症状は、38℃程度の発熱で、嘔吐等消化器症状を伴う例も多い。感染性胃腸炎はロタウイルスが流行中で、乳児では高熱を伴いインフルエンザと紛らわしい例もある。下痢が典型的でない学童にも見られるので検査実施が必要。幼児で発疹のみで咽頭所見が典型的でない A 群溶連菌感染症を散見する。他に水痘が僅か、手足口病が 1 例、12 歳男児でマイコプラズマ肺炎が 1 例あった。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第 15 週→第 16 週)は 87 例→77 例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(55 例→40 例)、②インフルエンザ(15 例→19 例)、③A 群溶連菌咽頭炎(12 例→11 例)、④水痘(0 例→4 例)、⑤伝染性紅斑(0 例→1 例)、⑥突発性発疹(4 例→1 例)、⑦流行性角結膜炎【眼科定点】(0 例→1 例)。(柳生 記)

県南部外来状況：外来数は、第 16 週で減少傾向であったが今週第 17 週で増加している。感染性胃腸炎のロタが保育所児やその兄弟家族で流行中。今週更に流行が拡大している。輸液を要するものも多い。インフルエンザは、A 型が見られなくなり B 型が僅かながら続いていたが、今週第 17 週になり急増(全て B 型)、保育所や小学校での学級閉鎖も出ている。入学式直前に A 型に罹患、登校してまもなく今度は B 型に罹患した 1 年生や、母親と妹が A 型に罹患(他医)、4 日後に発熱あり B 型であった例など。A 群溶連菌咽頭炎もやや多い。水痘僅か。アデノウイルス感染症もあり。流行性耳下腺炎は見られず。(山本 記)

【インフルエンザの発生動向について ～感染症情報センターより～】

定点あたり患者報告数が、2週連続で増加しています（図）。これは、2008年以降の同時期とは明らかに異なる動向です。特に、地域別の発生では、桜井および葛城保健所管内の増加が顕著で、葛城保健所管内では第16週報告数が11.45と注意報レベルに達しています（表）。

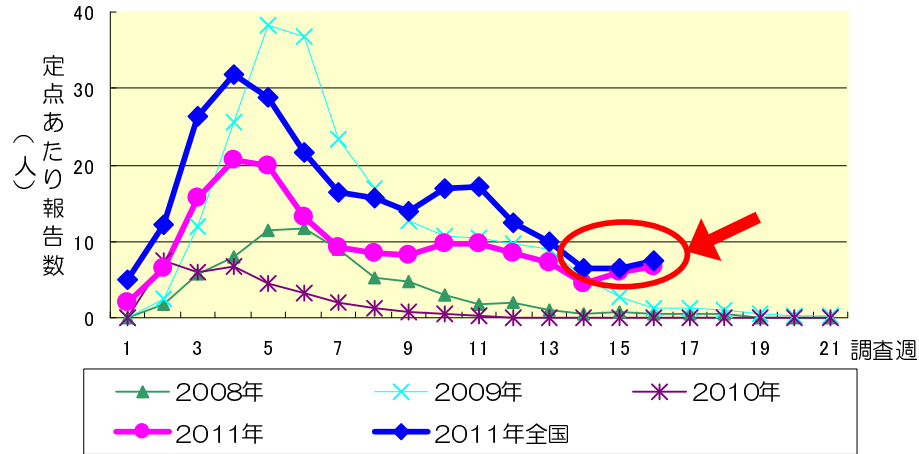


図. 奈良県におけるインフルエンザ発生状況（2008-2011）

表. 県全体および保健所別定点当たり報告数（人）

調査週	県合計	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野
第15週 (4/11~4/17)	6.05	5.82	7.06	3.09	9.73	2.00	3.00
第16週 (4/18~4/24)	6.65	3.45	6.13	7.73	11.45	3.00	3.33

赤字は注意報レベル

（感染症情報センター 記）